

平成30年度 幼稚園 ゆめプラン評価公表シート

和歌山市立宮前幼稚園

教育目標 心身ともに健康で、心豊かな子供を育てる

ゆめ	重点目標	具体的取組	取り組みの状況
豊かに感じ、意欲をもって遊ぶ子供を育てる	身近な環境の中での様々な体験をする	園内外の環境を見直し、子供たちが様々な体験ができる場の工夫をする。	園内に育てている実のなる木の収穫時期を大切に、収穫するのに必要な用具を用意することで、子供同士で試行錯誤する姿が見られた。また、子供たちが“やってみたい！”と思える用具や道具の準備、環境構成についても取り組んでいる途中なので、引き続き課題として残しておきたい。
		安全点検を毎月行い、子供たちが安心して遊べる環境づくりに心がける。	安全点検は、常に頭に入れておいて、積極的に取り組んでいき、複数の目で改善を図っていく。
		食べ物を大切にする気持ちを育てる。 (給食指導・野菜の栽培等を通して)	今年度の途中から、三色レンジャー(栄養素)クイズを子供たちがおこなった。始めはやりたい子供たちから始めて、今は当番活動の一環で行っている。この食品は自分のどの部分を強めてくれるかをクイズ方式で出すことで、食べ物を大切にする気持ちを育ててほしい。
		食べることを楽しむ経験を多く取り入れる。	ジャガイモ・タマネギ・サツマイモ、大根、ブロッコリーその他、園庭にザクロ・ビワ・イチゴ・柿・梅も実になった。季節を感じ、自分で収穫し食することで食べることを楽しむ経験につながったように思う。
	身近な人とのかかわりを深める	異年齢同士が交流をする場を多く設定する中で、異年齢との交流を図り、人とのかかわりを楽しくめるようにする。	今年度の途中から、毎朝、登園後は好きな遊びをする時間をたっぷり取るように計画を立てることで、自然と異年齢児とのかかわり生まれつつある。この活動は次年度も続けていきたいと考えている。
		地域をおさんぽしたり、地域の人とふれあったりする機会を計画する。	地域のおさんぽは、計画を立てて取り組んでみたが、天候などで計画倒れになってしまっている。しっかりと歩く経験をしていきたいと思う。地域交流は、5歳児のみであるが公民館活動の一環として、教室の先生を招聘している。
		隣接している小学校の児童・地域の保育所の園児や職員との交流を計画し、一緒に活動することでたくさんの人に親しむ機会をもつ。	今年度は保育所・1年生・5年生との交流回数も増え、いろんな人とのかかわりを楽しくきっかけとなったように感じる。また、職員間はスタートカリキュラム作成のため、小学校の先生と話し合う機会を作り、子供たちの育ちについて継続していきたい。
	保護者との連携を深める	降園時や園庭開放時に子供の様子を伝えたり、聞いたりすることに心がけ、子供がよりよい成長を考える。	駐車場の関係でなかなか降園時に保護者と話ができないことが多いことが、引き続きの課題である。そこで、1学期に引き続き2学期も個人懇談会をもち、子供の成長を話す機会を作り、保護者と子供について話し合えるようにしてきた。
		クラスだよりや掲示板を使って、幼稚園の様子や子供の様子をより詳しく伝える。	掲示板では、行事の度に保護者へ子供たちの様子を知らせてきた。クラス便りも月1回ではなく、保護者に伝えたいときに出すように改善をしているところである。

2. 保護者アンケート集計結果の比較から見えてきた成果や課題

・子供は、毎日楽しそうに幼稚園に通っているの項目に98%であり、昨年より3%増えた。子供の家庭環境を背景に頭に入れ、どの子も“幼稚園楽しい”と思えるように、環境の見直しや保育の在り方を考えて取り組んでいきたい。
 ・子供は、幼稚園でのことをよく話すの項目については、20%の子供があまり話さないという回答であった。お家で話せる内容を保護者に提示するなどの工夫を今後も考えていきたい。

3. 今年度の取組の成果と課題・今後の改善方策

・保護者の方に、幼稚園での取組をどのように伝えるか、毎年の課題である。今年度クラスだよりを毎月1回だけの枠を決めずに、伝えたい時に出すという改善をしていきたい。
 ・ホームページの更新もなかなか思うようには更新できなかつたのが、反省である。やはり、ホットな話題提供を来年は取り組んでいきたいと思う。また、保護者の方にもホームページの存在をアピールできるようにしていきたい。

4. 学校関係者評価委員による自己評価の検証

・駐車場問題もあるが、宮前地区の保護者はなるべく歩いて送迎してもらうように促していく。そうすることで、交通ルールも身につけ、保護者の方ともゆっくり話ができる利点を伝えていく。